

令和4年度 事業報告

(社福)長野県知的障害者育成会

I 法人本部事業報告

社会福祉法人長野県知的障害者育成会は、公益を大切にする民間法人として、長野県手をつなぐ育成会と協同して、長野県における知的障害者の福利厚生を増進するための実践の場として、県下にネットワーク形成を図りながら、事業を推進しました。

本年度の職員研修は、法人財務会計入力適正化を目的に7月14日に法人施設長及び財務会計入力担当者による財務パソコン研修会を松本市「JDL 松本営業所」にて開催しました。

また、法人職員研修会は3月27日（月）午前10時30分～正午までZOOM研修会を開催致しました。事前に各事業所にアンケートを取り、当法人の評議員でもある、かりがね福社会理事長の小林彰氏に依頼し、日頃の支援について、虐待なのか不適切な支援なのか、不適切な支援にならない様、事前に事業所で支援方法を決めておく等、わかりやすく話して頂きました。

法人の基本理念「誰もが笑顔で輝く共生社会の創造に貢献します。」に基づき事業推進を致しました。

1 会議の開催

事業計画、予算、決算、諸規定改正などの重要事項について下記会議を開催しました。

(1) 理事会（4回）、評議員会（2回）の開催

	開催日	主 な 内 容
第1回 理事会	4.5.26	令和3年度事業報告・決算承認について 評議員会の招集について 法人倫理要綱について 虐待防止・身体拘束適正化検討委員会規程について 令和4年度第1回補正予算について
第1回 評議員会	4.6.16	令和3年度事業報告について 令和3年度決算書類・財産目録の承認について （報告） 令和4年度事業計画・予算について
第2回 理事会	4.8.22（定款27条に基づく理事会の議決の省略により行う。）	評議員会の招集について 定款変更について
第2回 評議員会	4.8.31（定款13条に基づく評議員会の議決の省略により行う。）	定款変更について
第3回 理事会	4.11.18	令和4年度第2回補正予算について 小諸みかげの市からの無償譲渡について

		給与規定の一部改正について
第4回 理事会	5. 3. 24	補正予算について 事業計画について 次年度予算について 第2次中期計画について 就業規則等改定について

(2) 経営委員会の開催 (5回)

	開催日	主 な 内 容
第1回	4. 4. 28	令和3年度第5次補正（理事長専決）について 令和3年度決算報告について 監査対応について 令和3年度事業報告について 法人倫理要綱について 虐待防止・身体拘束適正化検討委員会規程について 定時評議会の開催について 職員研修会について
第2回	4. 7. 14	第1四半期収支状況について 第2次中期計画について 各施設の運営状況について
第3回	4. 10. 13	第2四半期収支状況について 各施設の運営状況について 補正予算について 理事会について 第2次中期計画について
第4回	5. 1. 19	次年度新規事業・新年度事業計画について 採用計画について 新型コロナウイルス感染症対策について 各施設の運営状況について キャリアパス面談について
第5回	5. 3. 9	補正予算について 事業計画について 次年度予算について 第2次中期計画について 就業規則等改定について

(3) 施設長会議の開催 (3回)

	開催日	主 な 内 容
第 1 回	4. 9. 15	コロナ感染について経過報告 キャリアパス運用について 職員研修会について 第 1 回補正について 各施設の課題について
第 2 回	4. 11. 22	キャリアパスの今後の進め方について 虐待防止研修について 各施設より連絡
第 3 回	5. 2. 24	補正予算について 事業計画について 次年度予算について 事業所負担金について 監査の持ち方について

(4) 虐待防止委員会、身体拘束適正化検討委員会の開催 (2回)

	開催日	主 な 内 容
第 1 回	4. 9. 15	今年度の虐待防止、身体拘束適正化研修について 虐待防止、身体拘束禁止に関する資料について 各施設での不適切な支援などの状況について
第 2 回	4. 11. 22	今年度の虐待防止研修について 各施設での状況について

2 経営

(1) 安定した経営の確立

経営委員会において、四半期の収支状況や利用状況を確認しながら事業展開を進めました。

令和 4 年 1 月作成された「職員人材育成プラン」の説明会を ZOOM で行い、実際の運用について話し合いを持ちながら、各施設での面談、昇給の適用等、法人内での共通認識で進めて行けるよう調整を行いました。

(2) 施設環境整備

令和 4 年 3 月 1 日に L サポート・久堅農園に「きららの郷」建設工事費補填のため法人本部積立金 1,800 万円を振り込んでいますが、今後の各施設の環境整備、維持管理費等に本部積立金の活用について、話し合いを重ねています。

(3) 人材の育成

福祉事業活動を担う職員の質的向上等のため職員研修会を開催しました。

ア 会計事務 令和 4 年 7 月 14 日 (木) 10:00 松本市

・テーマ : 会計処理 (JDL) 実務研修

・参加者 : 各事業所会計責任者・出納担当者・管理者

イ 虐待防止研修

令和5年3月27日（月）10：30～正午

ZOOM 研修

講義

- ・テーマ : 「日頃の支援について」
- ・講師 : 小林彰氏

3 管理業務

- (1) 法人第1次中期計画の期間終了に伴い、第2次中期計画について、経営委員会で検討し、まとめました。
- (2) 定款の変更や届け出事項の変更に伴い、必要書類を揃え、県に提出、認可を受けました。

4 情報の開示

令和3年度事業報告書や財務諸表について、開示用の資料を備えたほか、ホームページ及びワムネット情報公表システムによる公開を行いました。

Ⅱ ドリームワークス事業報告

新型コロナウイルス感染拡大防止に感染対策をとりながら、概ね予定通り開所することができました。

感染者が発生したときには、感染が広がらないよう PCR 検査実施や嘱託医療機関と連携し利用者の状態が重篤化しないよう、感染が広がらないよう状況の分析を行い対応しました。新型コロナウイルス感染防止の観点から販売活動は自粛することが多くなりました。安定した開所日を目標にまた利用者の生活がストレスフルにならないように配慮しつつ、感染レベルが下がったときなどは近場での日帰り旅行などに出かけることができました。

1 提供したサービス

(1) 生活介護事業

- ア 障害の特性に寄り添いながら、楽しく安心して過ごせる環境作りに取り組みました。
- イ 地域の中で活動することで豊かな充実した毎日を送れるよう支援に取り組みました。スマイル山雅農業プロジェクトに参加し松本山雅サポーター、神林地区、松本山雅 F C の皆さんと種まき、収穫を行いました。大豆選別作業 990Kg を行いました。(就労継続支援 B 型も同内容)
- ウ 活動内容
 - (ア) 作業活動
資源回収・お菓子販売活動・缶つぶし、受託作業、大豆選別
 - (イ) 健康管理
ハイキング・インフルエンザ予防接種・体重/血圧測定・ワクチン接種・通院支援(適時)・投薬管理・リハビリ・歯磨き・健康診断(嘱託医療機関にて受診)
 - (ウ) 療育的活動
ビーズ(ワークシステム)・音楽リトミック・パソコン(ブログ等)絵画・自立課題への取り組み
アート活動・音楽活動: すみあそび・音あそび・色あそび
ながのアートミーティング(外部講師2名)
 - (エ) 季節の行事
花見・紅葉狩り・日帰り小旅行・クリスマス会
 - (オ) 送迎サービス(重度送迎加算対象) 利用者: 17名
松本市内方面(東): 朝・夕
松本安曇方面(西): 朝・夕

(2) 就労継続支援B型

ア 障害の特性に寄り添いながら、楽しく安心して作業活動等に取り組める環境作りに努めました。

イ 地域の中で活動することで豊かな充実した毎日を送れるよう支援に取り組みました。スマイル山雅農業プロジェクトに参加（1）ア参照

ウ 活動内容

(ア)菓子製造

- ・松本山雅ホームゲームの際にガン豆くんクッキーの販売を行いました。
- ・嘱託医療機関 20 周年記念プリントクッキーを納品しました。
- ・喫茶山雅へバレンタインクッキー、ハロウィンクッキーを納品しました。
- ・その他に以下の場所へ定期的に納品しました。

銀座 TOKYO ながの、喫茶山雅、浅間温泉わいわい広場、清流の里、アルプス市場

・販売会

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い販売会は中止または不参加
令和4年度、神林ハウスでの販売は新型コロナウイルス感染拡大防止のため感染レベル4以上の時には中止としました。

(イ)資源回収

古紙・アルミ缶の回収では、毎日定期的に回収活動ができるようになり、利用者の好きな仕事になっています。

(ウ)自主製品

麦ストロー作りを行いました。販売販路の開拓が行えませんでした。

エ その他

余暇活動・健康管理・季節の行事等は生活介護事業と一体化して行いました。

<作業収入及び工賃状況>

作業内容	収入金額（円）	1人当たりの月額平均工賃（円）
自主製品販売（工芸品）	13,200	就労継続B型（9名） 7,961 （前年対比 70.9%） 生活介護（4名） 8,199 （前年対比 93.7%）
自主製品販売 （菓子食品・コーヒー 販売・コーヒー豆 焼き芋）	1,142,388	
受託作業（加工）	162,429	
受託作業（廃品回収）	442,322	
受託作業（リサイクル）	0	
合計	1,760,339	

(3) 相談支援事業(サービス等利用計画作成)

- ア ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者・家族の意思決定を尊重した計画作りを進めたが、計画作成数は事業の利用者のみに終わりました。
- イ サービス等利用計画の作成を通して、地域で不足しているサービス等社会資源の改善・開発につながるような取り組みまでは行えず、次年度への課題となりました。
- ウ 福祉・医療・教育・保険・就労・司法等さまざまな人と人とのネットワーク作りの構築を図るよう努めました。
- エ 計画相談 27 件、モニタリング 57 件を実施しました。

2 運営管理

(1) 避難訓練等

- ア 施設内において 2 回(6 月 3 月)避難訓練緊急連絡網にて連絡、神林消防署立ち合いの下、避難訓練を実施しました。
- イ セコムと業務契約を締結し、防災対策をとっています。
- ウ AED の設置点検を年 4 回行いました。

(2) 修繕

- ア 松本市「強度行動障害者に対応するための施設改修に対する補助金」を利用し、生活介護棟個室トイレ 1 室の補修と壁の強化修繕を行いました。

工事総額：224,620 円 松本市補助金：168,000 円

(3) 健康診断

- ア 希望利用者に対して嘱託医療機関において 5 月健康診断を行いました。
- イ 職員全員の健康診断を 7 月から 12 月の間に市内医療機関において行いました。
- ウ 希望利用者に対して嘱託医療機関において 11 月にインフルエンザ予防接種を行いました。
- エ 職員全員に嘱託医療機関において 11 月にインフルエンザ予防接種を行いません。
- オ コロナウィルスワクチン接種を 2 回(4 月、9 月)に行いました。

(4) 苦情処理

苦情案件	1 件	(利用者家族より)
ヒヤリハット	6 件	
メンバーによるメンバーへの加害行為	1 件	
メンバーによる職員への加害行為	2 件	
誤嚥	1 件	
転倒	1 件	
投薬の渡し忘れ(週末帰省分)	1 件	

(5) その他

- ・長野県知的障がい福祉協会他各種研修会に参加しました。
- ・権利擁護の ZOOM 研修会を松本市内 7 法人 10 事業所合同で行いました。
- ・野澤和弘氏 障がいのある方の権利擁護
川西大吾氏 自閉症スペクトラム障がいの基礎理解 2 回
- ・松本市の実地指導がありました。
指摘事項：
送迎加算 I→II への過誤について
個別支援計画に際してのアセスメント、支援会議等の記録の確認
コロナウイルスに関する自粛請求の確認及び過誤について
- ・業務災害保険適用案件 2 件 職員 2 名

3 地域・関係機関との連携

(1) 行政機関等

松本市・安曇野市・塩尻市・朝日村・山形村
松本保健福祉事務所・神林公民館

(2) 活動支援者

パソコン指導者・すみあそび指導者・音あそび指導者
お菓子指導他

(3) 近隣施設

入所施設：アイアドバンス今井・アルプス学園・四賀アイアイ
通所施設：コムハウス・第二コムハウス・松本ひよこ・山ぼうし
パノラマ他
・居宅介護事業所：結いの街・らいふあしすと(西)・CoCo・みらい
・相談支援センター：wish・ボイス・ぴあねっと・中信他

(4) 医療機関

あかはね内科・神経内科医院・こども病院・村井病院他

(5) 学校関係

松本養護学校・寿台養護学校

(6) 就労関係

- ・長野県セルフセンター
- ・東電波田療・母子ホーム・美容院 2 店舗・あかはね内科他
- ・中田歯科医院等 (定期的に回収箇所 10)

(7) その他

- ・神林商工会に加入
- ・松本山雅を応援する会神林地区に参加
- ・パノラマ・ドリームワークス運営委員会(松本)

- ・長野県知的障がい福祉協会加盟
- ・イオンクレジット株式会社（クリスマス会にて交流）
今年度は利用者一人ひとりへプレゼントの寄贈をいただきました

資料

令和5年3月31日現在 【生活介護・就労継続支援B型】

総開所日数：244日

【生活介護】平均障害支援区分：5.2

重度行動障がい加算対象者：13名

<利用者の状況>

1 年齢別利用者数（人）

区分	10代	20代	30代	40代	50代	計
生活介護	0	11	10	4	0	25
就労B	1	4	3	0	0	8
計	1	15	13	4	0	33

2 障害者別数（人）（ ）いずれも知的と重複

障害別	知的	身体	精神	視覚	聴覚	計
生活介護	25	(8)	(1)	0	0	25
就労継続 支援B型	8	(1)	(1)	0	0	8
計	33	(9)	(3)	0	0	33

3 支援区分別人数【生活介護25名】 平均支援区分：5.2

支援区分	1	2	3	4	5	6	合計
男			0	4	6	5	15
女			1	2	2	5	10
			1	6	8	10	25

<職員の状況>

職種別職員数（人） 多機能型 注（ ）内は兼務職員配置数

職種別	施設長	サービス 管理 責任者	生活支援員 作業指導員 相談員	看護師	送迎員 事務員	計
生活介護	1	(1)	12 (2)	1	1	15
就労継続支援 B型	—	—	(1)	—	—	
	—		1	—		1
相談支援	(1)		(1)			
計	1		13	1	1	16

※施設長は多機能型管理者・サビ管と相談支援の管理者を兼務

<新型コロナウイルス感染者状況> (令和4年4月1日から令和5年3月31日)

利用者 19名 内2回感染者 2名
職員 10名 内2回感染者 2名

Ⅲ エルサポートパノラマ事業報告

令和4年度も新型コロナウイルス感染症が運営に影響を与えた1年でした。7月にはB型及びグループホームにおいて8名の集団感染が発生し、10月から1月にかけて5人が感染。また、感染者との濃厚接触事例も頻繁に発生し、都度の対応に追われることとなりました。

こうした中でも、利用者には地道に作業に取り組んでいただくとともに、新たな作業の取り組みや各種作業の売上増もあり、月額工賃は1万5千円超えを達成することができました。

一方、経営面においては事業活動で黒字を確保できたものの、全体での収支は赤字の結果となりました。

1 提供したサービス

(1) 就労継続支援B型事業

松本市中央図書館の館外清掃、廃品回収作業を中心として、新規作業の長野県松本合同庁舎清掃や、封入作業、喫茶、菓子等の売上の増により、前述のとおり月額工賃は1万5千円を超えることができました。

コロナでは、7月の集団感染時にB型の利用者・スタッフが含まれていたことから、8日間通所をとめることとなりましたが、施設長が感染で不在のなか、スタッフの献身的対応やドリームワークスのご協力等により、グループホームを含めて乗り切ることができました。その他、感染者が発生したり濃厚接触者の利用者が出た場合には、利用者に通所自粛等のご協力をいただき、感染を広げることなく対応できました。

ア 就労支援内容

(ア) 清掃

当事業所の中核的業務として、松本市から受託している松本市中央図書館の庭園及び駐車場の清掃に年間を通じて取り組みました。

また、新たに長野県松本合同庁舎の清掃業務を受託できたことで、週に1回の作業に取り組み、増収へとつながりました。

(イ) 喫茶

コロナの影響で閉鎖となっていた中央図書館のオープンスペースが5月末に閉鎖解除となり、6月初旬から営業を再開することができました。12月以降は、わずかながらではあるものの、売り上げが回復してきています。

利用者には、「喫茶パノラマ」での接客を通じて、社会的マナーを身につける機会としました。

(ウ) 資源物回収

2カ所の回収ステーション（事業所併設ST、市内清水ST）及び法人・個人宅への訪問回収業務を通じて、古紙、古本、段ボール、アルミ缶、空き瓶等の資源物回収に取り組みました。

(エ) J3松本山雅チラシ封入

ホームゲーム開催時に配布される各種チラシの封入作業を行いました。

(オ) メール便

ヤマト運輸株式会社のメール便を、事業所周辺のエリアに配達しました。

(カ) 菓子製造・販売、クラフト製品の販売

今年度は城北地区福祉ひろばのひろば祭など5回の販売会に参加することができ、前年度より多くの売上を得ることができました。利用者も販売会への参加を楽しんでいました。

<作業収入及び工賃状況>

作業内容	収入金額(円)	1人当たりの月額平均工賃
自主製品販売（工芸品）	65,600	15,025円 (前年比 124.7%)
自主製品販売（菓子食品）	136,740	
受託作業（加工）	448,173	
受託作業（清掃）	1,959,198	
受託作業（喫茶）	712,050	
受託作業（廃品回収）	1,645,102	
合 計	4,966,863	

イ 生活支援

本年度もパノラマ祭や県外への旅行を中止としました。

事業所内部で毎月行うメンバー会については、利用者にも企画・運営に加わってもらい、利用者の要望を踏まえての交流ができる機会となりました。

(2) 共同生活援助事業

グループホーム「パノパノ」及び「ポノ」の運営を通じ、相談、入浴、食事、その他の日常生活上の援助を行い、地域のなかでの自立した生活を支援しました。

7月のコロナ感染者対応では、対象者の療養施設利用が困難なことからグループホーム内での療養対応としましたが、集団感染へと発展させてしまうこととなりました。B型も含めたスタッフの尽力やドリームワークスのご協力等により収束につながりました。

そして、10月、1月の利用者感染時には、7月の教訓を生かして別棟相談室に隔離した療養生活とし、特定のスタッフによる付き添い対応で感染拡大を防ぎました。

このほか、通所先等で濃厚接触者となった事例が数多くあり、利用者にはその都度、個室での対応等にご協力をいただきました。

2 運営管理

(1) 実地指導

松本市による実地指導があり、指摘事項等に対し、改善対応や加算誤りによる過誤調整等の対応を取りました。

就労継続支援B型	6月17日実地指導	8月2日改善報告書提出
共同生活援助	2月8日実地指導	(口頭指摘のみで改善報告は不要)

(2) 防災・安全管理

ア 火災報知器、AEDの設置管理については、セコムと委託契約を結んでいます。

令和4年2月の近隣火災を受け、火災報知器が未設置だった木工室に火災報知器を設置し、また、グループホームポノには消防法に適合する特定小規模施設自動火災報知設備への切り替えを行いました。

イ 防災訓練、避難訓練を実施しました。

(3) 健康管理

ア 健康診断

利用者 令和4年11月 職員 令和5年1月～令和5年3月

イ インフルエンザ予防接種

GH利用者 令和4年12月 職員 接種料の一部を補助

(4) 職員の資質向上（研修会）

人材育成研修、虐待防止研修	(法人研修)
虐待防止研修	(松本圏域障がい者虐待防止研修実行委員会)
自閉症基礎研修	(7法人合同研修)
サービス管理責任者交流研修会	(長野県知的障害福祉協会中信支部)
業務継続計画策定研修	(長野県健康福祉部障がい者支援課)

3 地域・関係機関との連携

(1) 地域との交流・関係機関の行事参加

地元の城北地区福祉ひろば、入山辺地区福祉ひろばを初め、エクセラン高校文化祭、合同庁舎販売会等への参加の機会をいただきました。

(2) 実習生の受入

松本短期大学 2名

<利用者の状況>

1 年齢別数 (人)

区分	性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
就労継続 B型	男	0	5	4	2	4	2	17
	女	0	1	2	4	2	1	10
	計	0	6	6	6	6	3	27
共同生活 援助	男	0	1	2	1	2	0	6
	女	0	0	2	1	1	0	4
	計	0	1	4	2	3	0	10
合計	男	0	6	6	3	6	2	23
	女	0	1	4	5	3	1	14
	計	0	7	10	8	9	3	37

2 障害別数 (人)

区分	性別	身体	知的	精神	計
就労継続 B型	男	3	11	3	17
	女	1	8	1	10
	計	4	19	4	27
共同生活 援助	男	0	5	1	6
	女	0	4	0	4
	計	0	9	1	10
合計	男	3	16	4	23
	女	1	12	1	14
	計	4	28	5	37

3 認定区分別人数 (人)

区分	性別	1	2	3	4	5	計
共同生活 援助	男	0	1	2	2	1	6
	女	0	0	2	1	1	4
	計	0	1	4	3	2	10

<職員の状況>

職種別職員数

(人)

事業名	施設長	サビ管	目標工賃 達成指導員	職業訓練 指導員	生活 支援員	世話人	計
就労継続 B型	1(1)	1	1	1	9(3)	0	13(4)
共同生活 援助	1(1)	1	0	0	0	10(3)	12(4)
計	1	2	1	1	9(3)	10(3)	21

注：() 内は兼務者数

<新型コロナウイルス感染者状況> (令和4年4月1日から令和5年3月31日)

※「パ」=GHパノパノ

No.	B型	GH	療養場所	発症日	陽性判明日	療養終了日
1	利用者	ポノ利用者	ポノ	7月17日	7月20日	7月27日
2	生活支援員	—	自宅	7月19日	7月22日	7月29日
3	施設長	施設長	自宅	7月21日	7月22日	7月31日
4	—	ポノ世話人	自宅	7月22日	7月22日	8月1日
5	利用者	ポノ利用者	ポノ	7月22日	7月23日	8月1日
6	—	ポノ利用者	ポノ	7月23日	7月24日	8月2日
7	—	ポノ世話人	自宅	7月23日	7月24日	8月2日
8	—	サビ管	車中・療養施設	7月23日	7月24日	8月2日
9	生活支援員	ポノ世話人	自宅	10月1日	10月2日	10月11日
10	(ドリームワークス)	パ利用者	相談室(隔離)	10月24日	10月24日	11月3日
11	利用者	パ利用者	療養施設	—	10月25日	11月2日
12	利用者	(他GH)	(他GH)	11月27日	11月27日	12月3日
13	利用者	パ利用者	相談室(隔離)	1月16日	1月17日	1月27日

IV 小諸みかげ 事業報告

本年度小諸みかげの事業運営は好転しほぼコロナ前の収入水準まで戻りました。コロナ禍で利用者の利用率低下に対する対応を強化したことや、何よりも減員が続いていた利用者の増員に成功した事などにより、自立支援費収入は前年度に比べて増収となりました。職員も員数減など様々な経営努力について理解し、その分増えた送迎業務や利用者増員への協力、更なる経費削減などに一丸となって努力してくれました。また、皆の努力により事業所でのコロナ感染者はありませんでした。

就労支援活動、生産活動については、受託紙器加工作業がコロナ禍前以上に復活しました。このため支援職員の負担が重くなったので、新たな就労支援員を配置しました。就業利用者も増えたため、前年度から約15%の増収となりました。

日中支援活動については、音楽療育活動や運動療法活動、外部指導によるレクリエーション活動などで完全復活する事ができました。その他、趣味的活動等も昨年度整備したWi-Fi環境での【SNS】コンテンツによる個別活動を進めました。

これら【ITC】活用による利用者支援をさらに向上、充実させるために、職員用利用者用のモバイルPC、外出活動に使用する介助用車椅子などを導入しました。

育成会が運営母体となる事業所として将来的な事業形態を展望しつつ、小諸市における障がい福祉事業の発展と充実を目指します。真に利用者、擁護者から望まれる事業所として、また必要とされる事業所となるよう努力していきます。

1 提供したサービス

各事業運営については、計画相談による〔サービス等利用計画書〕に基づく本人の望むべきライフスタイルを的確に把握した上で、本事業所で提供する日中活動に関わる様々な支援活動を進めました。

サービス管理責任者と支援スタッフが作成する〔個別支援計画〕と、そのモニタリングに基づくサービス提供活動の充実を進めました。

さらに、計画に基づく支援の実践と検証、また見直しのためのスタッフ会議の体系化と各直接処遇職員の業務分担を進めました。

(1) 生活介護事業

生活介護事業の利用者は、高齢者を含む重度知的障害者、重度身体障がい者、高度な精神障がい者、強度の行動障がい者等であるため、一様なプログラムによる支援が困難です。特に意思決定支援によるニーズ把握が難しいため、個々に必要な身体介護、行動援助、精神的ケア、他支援サービス等を提供しました。

ア 生産・創作的活動

個々の希望を尊重し、高齢者には本人の望む十分な休憩をとっていただくよう配慮しました。精神不調によるこだわりの強い方には自分のやり方やペースを尊重できるよう配慮しました。強度の行動障害により、多動、こだわりが著しく、自傷、他傷のおそれのある方については、ほぼマンツーマンによる見守りと活動支援を行いました。ソーシャルネットワーク【SNS】等を活用した日中支援活動を進めました。

<生産活動収入及び工賃状況>

作業内容	収入金額（円）	1人当たりの月額平均工賃（円）
自主製品販売(工芸品)	100	1,251 前年比（98%）
受託作業（加工）	90,000	
合 計	90,100	

一部就労活動の作業内容の詳細は後表、就労継続支援B型の表に統合しています。

<創作・訓練的活動>

区 分	内 容	方 法
絵画活動	自由画、スタッフ共同画等	適時
趣味的工作	塗り絵、折り紙、切り抜き等	適時
アートの活動	書、トレース画、自由創作等	適時
手指訓練	ビーズ、大豆、はし、紐	適時
音楽活動	歌合わせ、【SNS】楽曲歌唱等	適時
気分転換	近所の散歩、【SNS】動画鑑賞等	適時

イ 日常生活の介護、援助、支援活動

日常生活支援については、日々必要な方に対しての不便のない身体的介護、介助や精神不調時のメンタルケア、不安定時のパニック対応等について職員間の連携を強化しました。重度身障者（車椅子使用者）については、介護職員の連携を進め、医療機関からの指示による機能訓練等を継続しました。

ウ 社会生活の支援活動

社会生活の支援活動については、地域で暮らしていく上で、社会生活に必要な活動についての支援を行いました。

区 分	内 容	方 法
各種届け出	市役所等	送迎
制度利用	福祉サービス等、社会資源の活用	相談、付き添い
通院支援	定期通院、体調不良時の通院等	送迎、付き添い
金融機関	生活上必要な預貯金の引出等	送迎、必要時同行
買い物支援	生活上不可欠な買い物支援等	送迎、必要時同行
その他	不意の早退帰宅、緊急時の対応等	送迎、必要時対処

エ 健康、余暇等支援活動等

日常的なバイタルチェック、運動療育活動、機能訓練、音楽療育活動、施設内レクリエーション等(一時中止)施設内活動、また外出レク(ほぼ中止)、販売活動(ほぼ中止)などの支援活動に取り組みました。日々の健康を維持、増進し、生き甲斐をもって様々な活動を楽しめるようなサービスの提供に努めました。

区 分	内 容	方 法
運動療育活動	全体の健康活動と個別訓練	毎週木曜 委託
日常健康維持活動	朝体操 昼音楽体操 個別運動	毎日
音楽レク療育活動	音楽によるレク活動と発表練習	隔週火曜 委託
生きがいレク活動	ゲーム、クイズ、ストレス発散等	毎週水曜 ボラ
休日レク活動	利用者が決める映画鑑賞、カラオケ等	休日施設開所日
外出レク活動	屋外昼食会、公園遊戯、マレットG等	任意所定日
クラブ活動	コロナ禍により中止	休日任意所定日
施設行事活動	花見、季節行事、誕生会、お楽しみ会	所定日(外出中止)
地域行事参加活動	行政・事業所イベント 地域イベント等	所定日 (中止) 施設開所 (中止)
販売活動	行事参加と併せて実施(外出中止)	自主製品販売等

オ サービス利用促進活動

小諸市は山間地に位置し、利用者の居住在所も広範囲に点在しています。また、近隣3市町村からの利用者を受け入れています。このため、小諸市全域と御代田町、佐久市の一部について、可能な限りで送迎を行いました。

(2) 就労継続支援B型事業

小諸みかげの就労継続支援B型事業の利用者は、精神不調により就労的活動が不安定な方々が多数在籍しています。無理のない就業活動と【SNS】等を活用した日中支援活動を進めました。コロナ禍により、販売活動停止や一部清掃作業も減少しましたが、受託加工作業は徐々に復活し受注量は増えました。

ア 就労支援活動

生産活動については支援計画において、より精神的な安定を重視する活動内容の変更を進め、過度な負担や重圧がかからぬような作業活動を進めました。

<自主製品制作作業>

作業名	内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・縫製製品 ・木工製品 ・紙加工製品 ・アクセサリ製品 	袋類、ティッシュカバー等(中止) 爪楊枝立て、キーホルダースタンド等(中止) 自主製作オリジナルカレンダー等 動物キーホルダー、ストラップ等(中止)

<受託作業>

作業名	内 容
・行政調達受託作業	県ハローアニマル 清掃受託
・一般企業受託作業	県年金事務所 草刈り清掃受託(中止)
・その他、受託訓練作業	紙器ダンボール製品の加工 菓子箱折り作業等
	小諸市公衆トイレ清掃受託
	リースキンATM清掃作業
	漬物製品ラベルのシール貼り作業
	個人スキルを活かした専門清掃作業等

<就労支援収入及び工賃状況>

作業内容	収入金 (円)	1人当たりの月額平均工賃 (円)
受託作業 (加工)	726,428	7,420
受託作業 (清掃)	255,946	
合 計	982,374	前年比 (115%)

イ その他

日常生活の支援活動、社会生活の支援活動、健康、余暇等支援活動等、サービス利用促進活動については、同一施設の多機能型事業所であるため生活介護事業と共通です。

(3) 特定相談支援事業

相談支援専門員の大きな努力はありましたが、根本的な赤字体質の事業に変わりなく、他事業(生介・就継B)からのサービス区分間補填を行いました。

- ア 「サービス等利用計画書」、「モニタリング計画書」作成業務に関わるサービス変更、新規利用等の手続き、関係事業所との連絡、調整などが大変な年でした。
- イ 県感染警戒レベル4以上の時は、リモート(電話、WEB)会議となりました。

<計画相談支援実績>

計画相談実施数	延べ計画書作成数
20件	94通

2 地域・関係機関との連携

(1) 地域との連携

- ア 毎年恒例化した行事として、隣接、宅養老所の皆さんを招待し、七夕イベントなどは行うことができませんでした。(中止)
- イ 地域で行われる季節行事等の見学や参加は自粛しました。また、外出活動、販売活動等に合わせて、地域で催されるイベント参加も全て中止となりました。

(2) 関係機関、事業所等との連携

- ア 「小諸市」との連携： 小諸市の指定管理事業所として、担当課との連絡、調整、依頼事項等について緊密な連携を行いました。

イ 「佐久圏域相談支援事業所協議会」

ウ 「小諸市事業所連絡会」、「優先調達共同窓口」

(4) ボランティア・福祉体験・の受入

活 動	内 容	団 体
季節行事昼食会 レクリエーション	行事バイキング昼食(一部中止) 定期レクリエーション活動	みかげ登録ボラ
福祉体験授業	市内中学生の体験授業 (中止) 利用者との共同活動 (中止)	小諸芦原中学
福祉の職場実習	高等学校・福祉科生徒の体験実習 職場説明、研修 共同活動(中止)	東御清翔高校
福祉の職場体験	福祉の仕事を希望する就活者	体験者(本年度中止)

2-2 法人事業所間の連携

「小諸市福祉企業センター」と事業運営に関わる情報交換等の連携。

3 経 営

(1) 安定した経営の確立

高齢利用者や精神不調、不意の疾病などにより指定定員に対する実利用者人員の利用稼働率が下がったため、新規利用者の増員活動を行いました。

職員配置の合理化をはかり、人件費の削減を行いました

コロナ禍における経営的リスクマネジメントについて対応を進めました。

(2) 人材の育成

ア 内部研修の充実： 本事業所の「職員研修計画」に基づき、障がい福祉サービスの提供職員としての必要なテーマについて研修を行いました。

また、法人主催の「虐待防止」に係る全体職員研修にリモート参加しました。

イ 外部研修の実施 各職員個々のスキルアップのための研修。

サビ児管研修 新規1名 更新現任研修2名 終了しました。

これらについては、「処遇改善計画」に必要な職場要件として、研修に伴う職員配置への配慮や研修に伴う諸費の補助を行いました。

(3) 効率的運営

提供するサービスの低下につながらない範囲で事業運営に関わる更なる事業費、事務費等の経費の削減を行いました。また、可能な省エネに努めました。

4 管理業務

(1) 健康管理

ア 日常の健康管理・衛生管理については看護師、介護職員の平常業務とし家庭、生活拠点事業者等との連携のもと行いました。また、自力通院者についても医師との正確なコミュニケーションが困難な方は、職員が同行し対処しました。

イ 「保健衛生に関する規定」に基づき、「保健衛生管理責任者」を中心に、職員

「流行性感染症対策マニュアル」を遵守し、健康チェックの常態化、職員スタッフによる高齢者施設等に準ずる日常的な衛生管理活動を行いました。

(2) 権利擁護

ア 障がい者の権利擁護に関わる虐待防止に関するマネジメントについては、支援費減算対象となるため、職員研修計画に盛り込み内部研修、外部研修等で職員スタッフ職務の重点課題として理解を深めました。

(3) 防災・安全管理

ア 6月に火災警報器、避難誘導灯、消火器点検に合わせて火災避難訓練を、11月の定期点検に合わせて緊急連絡網〔訓練〕確認を実施しました。

イ 朝礼時、毎日の人員、所在確認と予定の把握等の確認を行いました。

(4) 個人情報の保護

法人の定める「個人情報保護規程」に基づき、適切に対応しました。

(5) リスクマネジメント

ア 今年度、苦情処理規程に基づき記録が必要とみなした苦情は0件でした。

イ 事業運営に支障をきたすような事故、事件、感染症等はありませんでした。

ウ GIGA・Wi-Fiの環境を整備したことによる複数の様々なデバイス接続に対するセキュリティー対策の保守を強化しました

エ その他、事業運営への脅威となっているコロナ感染症対策について、多くの事業運営に関わる様々なコンプライアンスの徹底に努めました。

(5) その他

サービス評価については、利用者、保護者を対象とした「アンケート調査」を行っています。項目は、施設環境、人間関係（職員評価含む）、権利擁護（苦情受付、自己決定、プライバシー等）、について評価、意見をもらっています。この評価等などは、指定管理者制度に基づき小諸市HPから公表しています。

5 その他

(1) 情報開示

運営規程に定められた方法により公的調査による公開や定められた公的開示、施設内に掲示すべき、義務づけられた情報等について適切に開示しています。

(2) 情報発信

小諸市の担当課窓口での紹介や圏域支援センター等の紹介を利用しました。また、小諸市広報誌への掲載や圏域事業所紹介等を利用しました。

＜利用者の状況＞

1 年齢別利用者数 (人)

区分	性別	定員	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
生活介護事業	男		6	1	1	1	1		1	1
	女		5		2	1	1		1	
	計	7	11		3	2	2		2	1
就労支援B型	男		7			2	2	1	1	1
	女		4				2	1		1
	計	13	11			2	4	2	1	2
合計		20	22	1	3	4	6	2	3	3

2 障害種別数 (人) 重複あり(利用受給者証種別)

区分	知的	身体	精神	視覚	聴覚	計
生活介護事業	6	1	4			11
就労支援B型	8	1	2			11
合計	14	2	6			22

＜職員の状況＞

職種別数 (人)

注 () 内は兼務者

区分	施設長 事業管理者	サービス 責任者	生活 支援人	職業 指導員	就労 支援員	相 談 支 援 専 門 員	看 護 師	送 迎 専 門 員	計
生活介護事業	1	(1)	3				1		5
就労支援B型	(1)	(1)	1	1					2
計画相談支援	(1)					1			1
合計	1		4	1		1	1		8

＜新型コロナウイルス感染者状況＞ (令和4年4月1日から令和5年3月31日)

利用者、職員ともに感染者はありませんでした。

V Lサポート事業報告

一人ひとりの障害に違いはあっても、誰もが心安らかで充実した生き方をしたいという願いを常に持っています。この願いに応えるべく多機能型事業所として、その特徴を生かした事業を展開してまいりました。

7月には念願でありました、グループホームを龍江地区に「きららの郷」として開所することができました。台風、地震などの自然災害にも安心、安全な生活ができるホームとなりました。働く場所としては下久堅から龍江に移転をし、「下久堅事業所」から「きらら事業所」と名称を変更しました。変化していく環境の中で、高齢障害者、重度障害者の日中活動はどうしたら良いのか、利用者一人ひとりに対し対応を変えながら支援を行ってきました。

利用者の願いを更に探り、それに合わせた活動や対応を工夫し、地域との連携を強化し、今まで以上に満足のいく生活づくりを推進しました。

1 提供したサービス

(1) 生活介護事業

サービスの提供にあたり、生活介護と就労継続B型との支援の区分を明確にし、それぞれのサービスの内容について、利用者の意向、適性、障害等の事情を踏まえて、適切かつ効果的に提供するように努めてきました。

ア 生産にかかわる活動

就労継続支援B型の利用者が行う作業の中で、一層優しい軽い作業を、一人ひとりの適正等に合わせて取り組めるようにしてきました。

活 動	内 容
牛乳パック回収	各施設、洋菓子店、病院等からの回収
キャップ分別	ペットボトルの仕分け
箱折り	ダンボールの折り目つけ
水引正月飾り加工	干支付け、乾燥剤入れ、袋詰め

<作業収入および工賃状況>

製品・作業	収入金額	一人当たりの月額平均工賃(円)
自主製品販売 (工芸品)	1 2, 2 3 6	1, 4 1 2 円
受託作業 (加工)	2 3 7, 6 0 8	
合計	2 4 9, 8 4 7	前年度対比 (1 1 2%)

イ 手芸、工作活動の実施

季節行事などに係る作品を製作し、季節感や行事を楽しむことにより生活を楽しみ、新たな活動への意欲を高めるような取り組みをしました。

また、多くの皆さんに見てもらえるよう展示スペースを設け展示をすることができました。

ウ 施設外での活動

お花見、見学など施設外での活動では、目的地を工夫し目先を変えた活動、たくさんの経験を重ねる活動に取り組んできました。

活 動	内 容
四季の行事	お花見、緑陰を訪ねて、紅葉狩り、クリスマス会 他
製作活動	雛飾り、鯉のぼり、クリスマスツリー、他
施設外活動	花見、作品展見学、他

エ 健康管理

朝、昼の2回体温測定を行い健康観察を実施するとともに、顔色など様子に不調を感じたような場合には、家庭との連携をとりました。また、週2回看護師による血圧測定や健康相談を実施しました。

また、月1回、理学療法士をお願いし、姿勢の矯正、補助具の工夫の仕方等の指導を受けるとともに、家庭への連絡などを行ってきました。

(2) 就労継続支援B型事業

活動は、「東栄町事業所」と「きらら事業所」の2か所で行いました。

東栄町事業所の利用者は、片麻痺など身体障害の方が多く、作業としては軽微な作業が中心でした。

きらら事業所では、企業からの受託作業も安定してきました。また、龍江地区農家への季節に応じた作業の手伝いや、下久堅での資源回収の継続により地区の方々との交流をすることができました。

ア 生産活動

利用者一人ひとりの特性に配慮した作業内容、作業工程の工夫に努めるとともに、利用者の気持ちに寄り添うよう努めました。

また、活動を通して構築される生活に、充実感を得られるように心掛けました。

作業種を増やすことにより工賃アップを図りました。

<自主製品製作作業>

	作 業	内 容
東栄町	飾り物	クリスマスリース、吊るし雛など飾り物の製作
きらら	農業	米
	竹製品	施餓鬼棒

<受託作業>

	作 業	内 容
東栄町	廃品回収	アルミ缶 ペットボトルキャップ回収
	喫茶運営	ふれあいサロン（飯田勤労者福祉センター内）
	組立作業	梱包製品の組み立て
	清掃作業	さんとぴあ 外回りの掃除
きらら	柿取等作業	柿取作業 柿つるし ニンニクの植え付け
	組立作業等	シール貼り、段ボール組立
	廃品回収	古紙、アルミ缶等回収

(ア) 自主製品について

きらら事業所では、米をグループホーム、弁当販売事業所、個人に販売をしました。

(イ) 受託製品について

東栄町での水引の作業は利用者の大部分の方が関わることができ、年間を通じて安定した収入になりました。

下久堅地区での柿取、廃品回収作業は、農家から頼まれて行っている作業です。農家、区民から喜ばれることで意欲的に取り組むことができました。

<作業収入および工賃状況>

製品・作業	収入金額	1人当たりの月額平均工賃(円)
自主製品販売(農産物)	514,900	15,865円 前年度対比 (103%)
自主製品販売(工芸品)	415,937	
受託作業(加工)	1,240,923	
受託作業(廃品回収)	235,330	
受託作業(喫茶)	986,246	
受託作業(清掃)	374,400	
合計	3,517,889	

イ 季節にかかわる行事等、施設外での活動

安定した生活に変化をつけることによって、生活づくりに向かう意欲が一層高まるように計画はしましたが、新型コロナウイルス感染防止のため思うような活動が行えませんでした。

活動	内容
四季の行事	お花見、緑陰を訪ねて、紅葉狩り、クリスマス会 他
余暇活動	展覧会、ゲーム 他
交流会	新型コロナウイルス感染防止のため取りやめ
収穫祭	農作業のまとめとし施設関係者のみで実施
山ゆき	新型コロナウイルス感染防止のため取りやめ
昼食会	テイクアウト昼食

ウ 健康管理

(ア) 健康観察

朝の会で、体温測定、顔色等状況観察を行い、健康の状況を把握し、新型コロナウイルス感染防止のための措置に努めました。

ホームにいる利用者については、服薬、血圧測定、脈拍、体温測定などによって、健康状況の把握に努めました。

(3) 共同生活援助事業

龍江雲母地区に移転をし、「きららの郷」と名称を変更しました。大雨による避難もなくなり、安心、安全な生活ができるようになりました。健康面では主

治医に相談しながら、早めの対応を心掛け大きな病気になることがなく生活をすることができました。2月に利用者1名が新型コロナウイルスに感染しましたが、1名のみで終わることができました。短期入所については新型コロナウイルスの影響もあり利用者2名で延べ11日の受け入れでした。

(4) 相談支援事業

圏域の障害者及び家族の相談に応じ、その直面する課題に柔軟に対応するよう努めました。

・内容： 計画相談15件、モニタリング13件を実施しました。

2 管理業務

(1) 利用者との関わり

朝の会と終わりの会を重視しました。家庭からの前日から当日にかけての状況連絡を受け、その対応の仕方等について、毎日検討を行いました。

(2) 健康管理

施設において健康を害した方はなく1年間を過ごすことができました。健康管理に十分配慮した結果ととらえています。

(3) 防災・安全管理

ア 危機管理については、常に安全の確保に配慮しました。交通事故、道具の使用法、農機具の扱い方、感染症への対応等普段から留意してきたこともあって、大きな事故はありませんでした。

ヒヤリ・ハットでの情報の共有化をすることにより、危機管理意識を職員が持てたことが、危機管理の向上につながっていると思います。

イ 防災訓練を、年2回実施しました。地震、火災、への対応に分けて行いました。

(4) 苦情解決

2件の苦情がありましたが、すぐに対応を行い大きな問題にはなりませんでした。

3 地域・関係機関との連携

(1) 地域との交流

資源回収に着手することができ、地域との話し合いが進んできました。実際に各家庭を周る中で、地域とのかかわりが深まりつつあります。

また、龍江地区への移転を契機に「龍江地区・Lサポートきらら連絡協議会」を設立し、地域との交流活動促進、相互理解の促進に努めました。

(2) 関係機関との連携

飯伊圏域障害者総合支援センターとは、絶えず連絡を取り合ってきました。利用者への援助のあり方などを得たり、利用者紹介を依頼したり、施設としても参考になる点が多くありました。

飯田市とも、必要な時にすぐに連携の取れる体制になっています。

4 施設整備

グループホーム久堅農園の老朽化、また下久堅事業所が国道256号線バイパス計画線上にあることから、6月飯田市龍江雲母地区へそれぞれ「グループホームきららの郷」、「きらら事業所」と名称を変更し移転しました。

施設概要及び事業費は次の通りです。

(1) きららの郷

敷地面積 1640 m² (借地)
 建築面積 314 m²
 構造 木造平屋建て
 (居室9室 ショートステイ1室)

事業費内訳

設計監理費 5,995 千円
 建設工事費 110,000 千円

(2) きらら事業所

敷地面積 1194 m² (借地)
 建築面積 306 m²
 構造 木造平屋建て
 (作業室、食品加工室、多目的室、相談室等)

事業費内訳

設計管理費 2,420 千円
 建設工事費 (改修費)
 40,584 千円

資料

令和5年3月31日現在

<利用者の状況>年齢別利用者数(人) (サービス重複利用者あり)

区分	事業所	性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代~	計
生活介護		男	0	1	1	2	1	2	0	7
		女	0	2	1	0	3	1	0	7
		計	0	3	2	2	4	3	0	14
就労B型	東栄町	男	0	0	0	0	0	1	0	1
		女	0	1	0	0	1	0	0	2
		計	0	1	0	0	1	1	0	3
	きらら	男	0	1	2	2	0	3	0	8
		女	0	0	3	1	0	0	1	5
		計	0	1	5	3	0	3	1	13
共同生活援助	きららの郷	男	0	0	1	1	0	3	0	5
		女	0	0	1	2	0	0	1	4
		計	0	0	2	3	0	3	1	9
合計			0	5	9	8	5	10	2	39

2 障害者別数（人）（障害の重複あり）

障害別	知的	身体	精神	視覚	聴覚	計
東栄町	6	9	2	0	0	17
きらら	11	0	2	0	0	13
きららの郷	8	1		0	0	9
計	25	10	4	0	0	39

3 認定区分

区分	1	2	3	4	5	6	計
生活介護	0	1	4	5	1	3	14
共同生活		4	3	2			9

<職員の状況>

職種別職員数（人）注：（ ）内は兼務職員配置数

区分	施設長	代理	サービス管理 責任者	生活支援員 職業指導員	看護師	世話人	計
生活介護	(1)	1	(1)	4	1		6 (2)
就労継続 支援 B 型	1	(1)	1	4			6 (1)
共同生活 援助	(1)		(1)	1		4 (1)	5 (3)
相談支援	(1)			(1)			(2)
合計	1 (3)	1 (1)	1 (2)	9 (1)	1	4 (1)	17 (8)

<新型コロナウイルス感染者状況>（令和4年4月1日から令和5年3月31日）

きららの郷 利用者 1名
 きららの郷 職員 2名

VI 小諸市福祉企業センター事業報告

小諸市が、現在の地において昭和 55 年から直営で開所・運営してきた「小諸市福祉企業センター」を、市から指定管理者として平成 27 年 10 月から運営を開始し令和 3 年度から令和 7 年度まで 5 年間引き続きの指定を受けました。

市直営時に実施していた生活保護授産事業及び基準該当就労継続支援 B 型事業を改編し、生活保護授産事業と長野県から新たに指定を受けた就労継続支援 B 型事業を開始するとともに、地域から強い要望のあった就労移行支援事業を平成 28 年 6 月から開始しました。

近隣企業の協力を得て、受託加工業務を継続実施するとともに、自主製品の製作・販売にも取り組みました。

一方で、福祉サービス事業所ならではの利用者の立場に立った相談支援や生活支援に努めました。

今年度は引き続き新型コロナウイルスの感染がまん延し、感染対策が日常となりました。利用者及び家族にも協力をお願いして不要不急の外出を避けていただくとともに三つの基本（マスクの着用・手洗い消毒・身体的距離の確保）を徹底して習慣となるように指導しました。また、毎朝の体温を記録し体調の変化を見落さぬよう注意してまいりました。成果として職員に感染者が出ましたが利用者の感染者は一人も出ることなく今日に至っています。

今年度もイベントが中止となり、利用者の地域の人々とのふれあいの場がなくなりました。6 月のスポーツ大会も中止、10 月の研修旅行も利用者及び職員の感染リスクを避けるために中止と利用者にとって何かとストレスのたまる一年となりました。

受託作業につきましては総額ではわずかに増えた（前年比 102%）ものの新型コロナウイルスの影響と大手企業の受託加工が海外にシフトする等できびしい状況となっています。

1 提供したサービス

(1) 生活保護授産事業

授産事業の利用者は、障害や病気などの課題を持っているとともに高齢の方が多いことから、個々の適性或可能性を生かした作業を準備し、一人ひとり充実感を持って日々の生活を送れるよう努めてきました。

また、年間の生活に変化をつけるような活動を入れて、マンネリを避け、より豊かな生活となるように努めてきました。

ア 就労支援活動

利用者の特性に配慮した作業内容となるよう作業工程の工夫をし、一人ひとりの気持ちに寄り添うような関わりを持つ中で、活動そのもの、活動を通して構築される生活に、充実感を得られるように心掛けてきました。

少しでも多くの工賃収入が平均的に得られるように、事業所内で調整しながら、各種の業務に取り組んできました。

<受託作業>

作 業	内 容
紙製品加工	パンフレット折り、封筒糊付け
段ボール加工	型抜き、組立、箱折り、糊付け等
工業製品加工	ベアリング製品のグリス塗り、梱包等
電気部品加工	電線接続端子カバー取付、ケーブル結束等
ファイル加工	折り、綴り具取付等
漬け物パック梱包	漬け物パック袋詰め、シール貼り、梱包作業等

<作業状況及び工賃状況>

作業内容	収入金額(円)	1人当たりの月額平均工賃(円)
受託作業（加工） 自主製品	4,134,392	17,536 (前年比 109%)

イ 生活支援・余暇活動

日々の生活を楽しみ、さらに生活意欲が向上することを大事に考えて、季節を意識した各種行事に取り組んできました。また、今年度も外部の行事はコロナウイルス感染防止の為にイベントが中止となりました。

活 動	内 容
四季の行事	七夕飾り、研修旅行（コロナウイルス感染防止で中止）、クリスマス会、節分豆まき、ひな祭り
外部行事	コロナウイルス感染防止の為に中止となる

ウ 社会生活の支援活動

同じ日課を繰り返すことを大事にして、利用者の安定を図ってきました。通年、朝8時30分までに各自それぞれの方法で通所し、ラジオ体操、朝の作業、10時の休憩、午前の作業、昼食休憩、午後の作業、各自帰宅の流れを基本としてきています。

希望者には移動時の交通手段や手続きの方法、利用可能な施設などを紹介しました。

エ 健康管理活動

健康管理は各自が家庭でやっていただくことを基本としていますが、朝のラジオ体操時に健康観察を行うとともに、作業中に顔色などの様子に不調を感じたよ

うな場合は、体温や血圧を計測し、医療機関での診察を勧めました。

2か月に1回、保健師2名にお願いし、血圧測定や健康相談を行った他、小諸市で行う健康スクリーニング(国保健診)に集団申し込みをし、半数以上の希望者が受診しました。

(2) 就労継続支援B型事業

利用者の障害の態様は一律ではないことから、個々の適性や可能性を生かした作業を準備し、一人ひとりが充実感を持って日々の生活を送れるよう努めてきました。

ア 就労支援活動

利用者の特性に配慮した作業内容、作業工程の工夫をし、一人ひとりの気持ちに寄り添うような関わりをする中で、活動そのもの、活動を通して構築される生活に、充実感を得られるように心掛けてきました。

少しでも多くの工賃収入が平均的に得られるように、事業所内で調整しながら、各種の業務に取り組んできました。

<受託作業>

作業	内 容
段ボール加工	型抜き、組立、箱折り、糊付け加工等
工業製品の梱包	ベアリング製品へのグリス塗り、袋入れ、箱詰め等
電気部品加工	ケーブル接続コネクタ取付、ハウジング加工等
ファイル加工	折り、ポリ綴り具の取付等
紙製品の加工	折り、両面テープ貼り、糊付け加工等

<自主製品>

自主製品	販売場所
サシェ 缶バッジ	夢ハーベスト農場 小諸駅前スマートカート乗場・中棚温泉 小諸市手をつなぐ親の会イベント会場

<作業収入及び工賃状況>

作業内容	収入金額(円)	1人当たりの月額平均工賃(円)
受託作業(加工) 自主製品	4,528,105	21,501 (前年比98%)

イ その他

生活支援・余暇活動、社会生活の支援活動、健康管理活動については、同一施設の多機能型事業所であるため生活保護授産事業と共通になります。

(3) 就労移行支援事業

一般就労に必要な技術・知識を習得できるように訓練をし3か所の受験をしましたが一般就労には結びつきませんでした。

ア 就労支援活動

事業所内の各種受託加工作業を行いながら、安定して作業を継続する訓練を行いました。

<受託作業><自主製品>は就労継続支援B型と同じです。

<作業収入及び工賃状況>

作業内容	収入金額(円)	1人当たりの月額平均工賃(円)
受託作業(加工) 自主製品	374,448	25,590 (前年比143%)

イ その他

生活支援・余暇活動、社会生活の支援活動、健康管理活動については、同一施設の多機能型事業所であるため生活保護授産事業と共通になります。

2 地域・関係機関との連携

(1) 家族との連携

休みの計画やコロナ対策など随時プリントで家族にもお知らせしました。また、特に情報交換が必要な利用者には、連絡ノートに事業所での様子を連絡するとともに、意見をいただきました。

(2) 地域との連携

小諸駅前スマートカート乗場と小諸市手をつなぐ親の会の展示会にて自主製品(缶バッジ)の販売をしました。なお、缶バッジの添付説明書のイラストは手をつなぐ親の会から提供の物を使用しました。

(3) 関係機関・事業所等との連携

ア 小諸市との連携

小諸市福祉事務所とは、課題のある利用者の生活や健康面について随時連絡を取り情報共有しながら利用者の支援を進めてきました。

イ 佐久圏域障害者自立支援協議会との連携

佐久圏域障害者自立支援協議会の就労アセス体制整備ワーキングにおいて、圏域の各種課題の検討に参加するとともに、就労アセスを分担できる事業所としてアセスの受け入れを行ってきました。

(4) 就労体験、実習の受け入れ

内 容	相 手 方	人 数
就労体験	小諸養護学校	4
実習	小諸養護学校	4
実習	一般	3

2-2 法人事業所間の連携

同一市内にある小諸みかげとは、情報交換を密に取りコロナ対策をおこないました。また、相談支援をお願いしています。

3 経営

(1) 安定した経営の確立

就労継続支援B型事業では、休みがちな利用者に電話するなど、出席率を増加することで収入増を図りました。また、利用者確保を小諸市に働きかけてきました。

(2) 人材の育成

所内研修とともに、各種外部研修にウェブで参加し、所内ミーティングで発表、研修成果の共有化を図りました。

ア 所内研修の実施

内 容	時 期
障害福祉現場におけるハラスメント研修	5月
佐久地域農福連携研修	11月
障害者虐待防止権利擁護指導者研修	12月
施設における感染症・食中毒まん延予防研修	12月
虐待防止研修	1月・3月

毎日の職員ミーティングにおいて、連絡事項については当然ながら、市や家族からの連絡を受けてその利用者への対応の仕方、作業中の状況報告を受けてその関わり方等について、利用者の立場に立ち、福祉とは何かという立場から、毎日検討し合ってきました。

イ 法人内研修への参加

内 容	時 期
財務研修	7月
職員人材育成研修	10月
職員研修	3月

ウ 外部研修への参加

内 容	時 期
サビ管初任者研修	6月
サビ管基礎研修	7月
就業支援基礎研修	7月
福祉職員生涯研修（中堅職）	9月
サビ管更新研修	12月

(3) 効率的運営

節電、節水等省エネに努めました。特に節電は電気代の高騰のため料金は増えましたが約1月分の電気量を節約しました。事業費、事務費とも経常経費の他、物品は極力緊急性の高い物の購入にとどめ、運営経費節減に努めました。

4 管理業務

(1) 健康管理

ア 職員については、生活習慣病予防検診の他、希望者にインフルエンザ予防接種を実施。職員ストレスチェックも実施して精神面のケアをしました。

イ 感染症の感染防止対策として、全員に毎朝、家庭での検温の依頼をするとともに施設玄関に非接触式体温検知器・自動アルコール噴霧器を設置し体温記録表に記入しました。また、施設内に入るすべての人に検温及び手指消毒を実施しました。

また、手洗いに関しては正しい手洗い方法を指導するとともに、手洗い場に紫外線消毒高温乾燥機・自動アルコール噴霧器で手指消毒を行いました。

施設内のマスク着用を定着させ定期的に窓開け換気を行いました。

更に、職員には健康チェックシートを配布して、健康チェックを毎日記入しました。

法人の感染症対策マニュアルに従い対策を講じるとともに、施設独自の衛生管理マニュアルを作成して、毎日、職員が次亜塩素酸ナトリウムによる施設内消毒を行ないました。

(2) 権利擁護

虐待防止・権利擁護指導者研修を実施し、虐待につながるリスクやヒヤリハット事例の洗い出しと対応策・伝達研修を行いました。

(3) 防災・安全管理

ア 危機管理については、折に触れて確認を行ってきました。交通事故防止、道具の使用法、製品の搬入搬出時の事故防止、感染症への対応等普段から留意してきたこともあって、大きな事故がなく過ぎました。常に危機管理意識を職員が持つことで、危機管理の向上に繋がっています。

イ 防災訓練を、消防署職員指導のもと1回実施しました。

(4) 個人情報保護

法人個人情報保護規程に基づき、個人情報の入ったファイルの施錠管理など保護の徹底に努めました。

(5) リスクマネジメント

法人の苦情解決の仕組みを利用契約時にていねいに説明するとともに、苦情解決フロー図を目のつきやすい場所に掲示しました。

利用者同士のトラブルに関しては、あらかじめ指導員が気配を察知しその場で間にすぐに割り込み緩衝材となる対応を随時行ったので、報告するような苦情案件は発生しませんでした。

(6) その他

サービス評価のため、3月に利用者アンケート調査を実施しました。結果、ほぼ全員の利用者から当センターを利用して良かったと回答いただきました。

5 その他

(1) 情報開示

運営規程に基づき情報公開に努めました。ワム・ネットにて公開しました。

資料

令和5年3月31日現在

1 年齢別利用者数（人）

区分	性別	定員	計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
授産事業	男		10				1	2	7	
	女		9				1	1		7
	計	25	19				2	3	7	7
就労継続 支援B型 事業	男		12		3	3	2	2	1	1
	女		5				1	1	3	
	計	19	17		3	3	3	3	4	1
就労移行 就労定着 支援事業	男		1				1			
	女									
	計	6	1				1			
合計		50	37		3	3	6	6	11	8

2 障害者別数（人）（手帳非保有者を除く）

区分	知的	身体	精神	視覚	聴覚	難病	計
授産事業	6	6	1				13
就労B	9	3	5				17
就労移行						1	1
就労定着							
合計	15	9	6			1	31

3 職員の状況

職種別職員数（人） 多機能型 ・注（ ）内は兼務者数

区分 （事業 名）	施設長	サービ ス管理 責任者	生活支 援員	作業指 導員	職業指 導員	就労支 援員	定着 支援員	相談専 門員	計
授産事業	1			4					5
就労B	(1)	1	(3)	(2)	3				4 (6)
就労移行	(1)	1	1		(1)	(1)			2 (3)
就労定着									
合計	1 (2)	2	1 (3)	4 (2)	3 (1)	(1)		0	11 (9)

<新型コロナウイルス感染者状況>（令和4年4月1日から令和5年3月31日）

職員 3名

利用者に感染者はありませんでした。